

透明な力を生み出す、人・まち・自然／歴史と未来の共生拠点

—市民のプライドを高め、これからのまちを再編集する—

「雲からも風からも透明な力がそのこどもにうつれ」(宮沢賢治の詩集「春と修羅 第3集」)

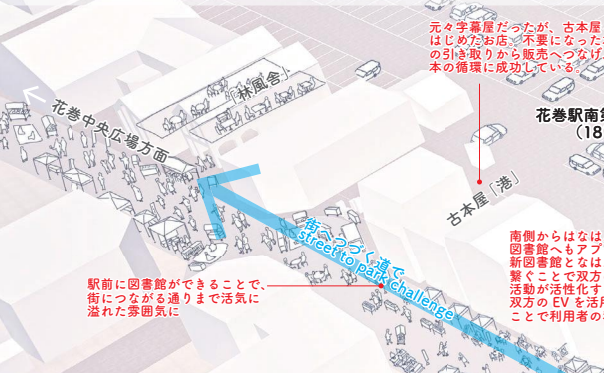
賢治が生徒や農民たちに向けて語りかけたこの一文は、自然をただ美しいものとして見るのではなく、自然の厳しさから、人間が生きる上で欠かせない「知恵」や「生きる力」を与えてくれるということが示されています。

この図書館は、その透明な力に会い、創造力を育み、挑戦する、隣接するなはんプラザや広場の活動と一体となって生活を豊かにする場です。蔵書数を効率的に収蔵する「ストレージ・コレクション」が、地域アーカイブズのネットワーク拠点となり、広場の屋根のように浮かんだ「スカイ・ライブラリー」は、郷土の風景を走る鉄道を想起させる新しい花巻のシンボルです。



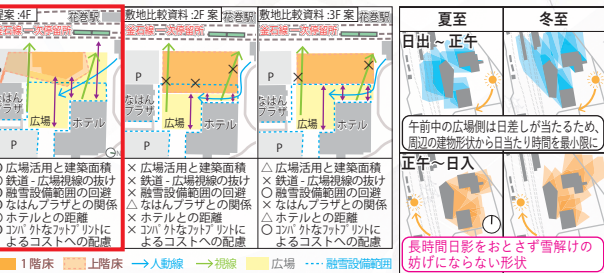
3 なはんプラザの機能を活かす 知を得て実践する場となる図書館

隣接するなはんプラザはホールや多くのスタジオを有し、市民にとっても良く活用されています。図書館で得た知識を活かした活動を、実践の場としてなはんプラザで行なったり、その活動を経て図書館で出版物をまとめたり、ふたつの場での活動が相互に作用し合います。そして、この場所を起点に新たな「ひと・もの・こと」の出会いと対話が次々に連鎖する可能性を生み出します。



周囲の要請に応答した計画

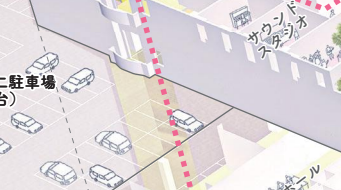
駅から広場を抜ける日常的な人の動き、イベント時の広場活用などに加え、コストへの配慮から既設の融雪設備範囲に干渉せず、土工事面積を最小限とした配置・ボリュームの計画としました。



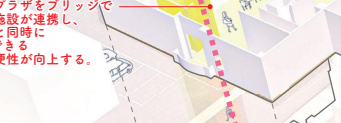
こども司書の活動でラジオ番組の制作を行うことも可能



元々学業履だったが、古本屋をはじめたお店。不要になった本の引き取りから販売へつなげ、本の循環に成功している。



南側からはなはんプラザEVを活用し、図書館となはんプラザをブリッジで繋ぐことで双方の施設が連携し、活動が活性化すると同時に双方のEVを活用することで利用者の利便性が向上する。



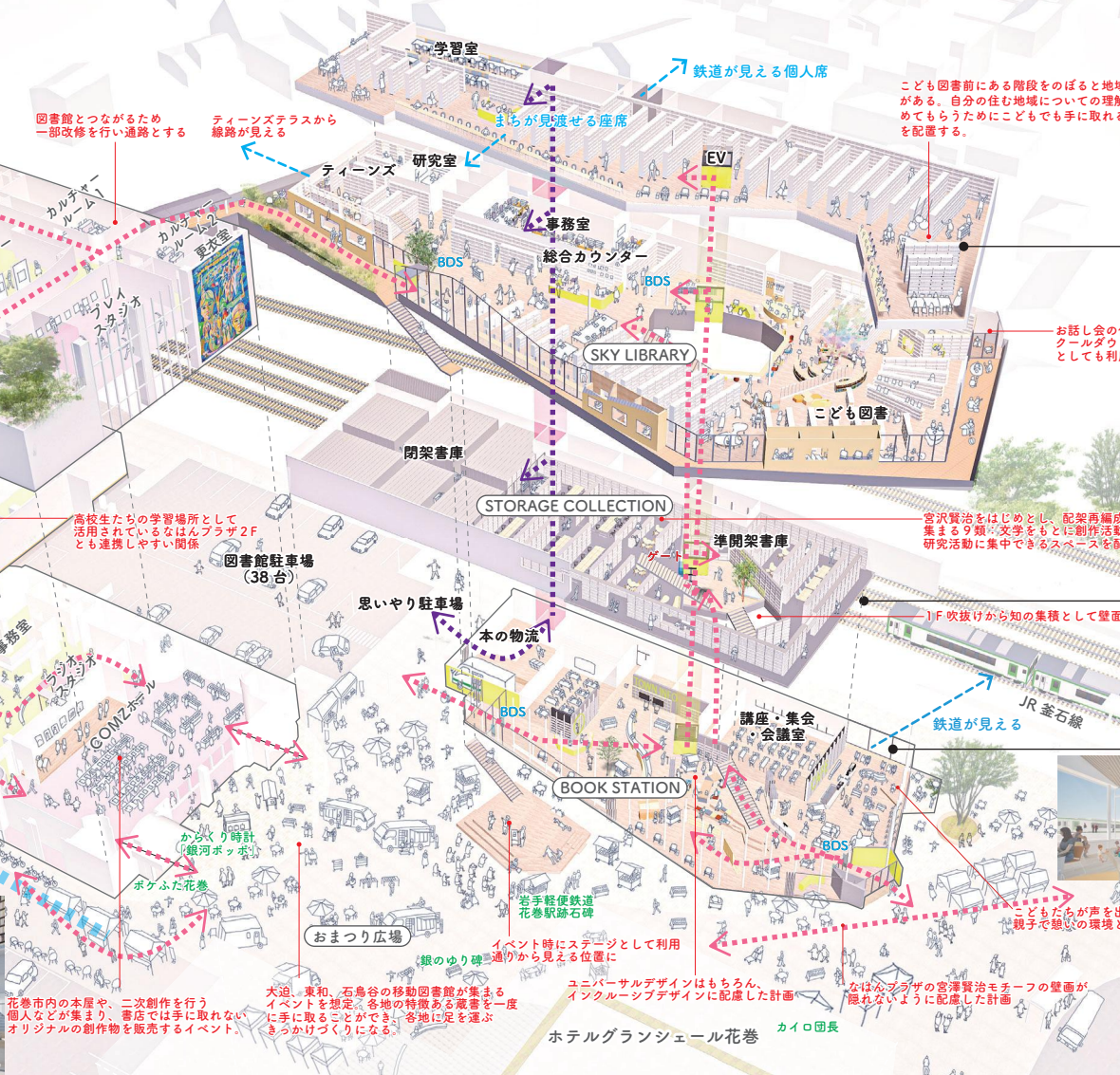
花巻駅南第2駐車場(181台)



花巻駅南第1駐車場(60台)



1F広場から図書館を見る



1 文化的なコモンズをゆるやかにつなぐ 情報のプラットフォーム

花巻市内の各地域が持つ特色や資料、広く点在する文化をつなぎ合うプラットフォーム＝出発地点としての役割を担う図書館を目指します。中央館としては、市内全体の資料配置を整理することで、本の物流に無駄のない資料搬送を可能とし、各地域図書館の魅力を最大化します。

花巻の“これから”を担うエネルギーが連鎖する拠点

近年、駅周辺から中央通りにかけて人が集まる拠点が複数計画されています。中心商店街と駅前、それぞれの活動に新たな点加わることで、一連のエリアとして繋がります。新図書館は、なはんプラザや広場、駅前だけではなく、これらの活動とも連携して花巻全体を活性化させる相乗効果を生み出します。

2 旧花巻駅の歴史を継承する新たな駅前空間と 既存広場の活動を最大化する配置計画

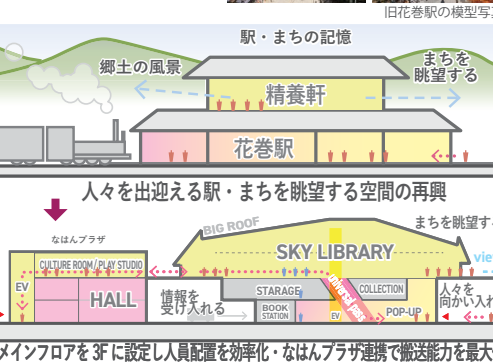
旧軽便鉄道花巻駅の1Fは多くの人が行き来する駅舎、2Fの精養軒は町を臨み滞在する空間として親しまれていました。当時の駅の記憶を継承し、1Fは市民が行き交う流動的空間、上階はゆったりと滞留できる空間としました。広さが必要となる諸室を上階に配置することで融雪装置に干渉することなく地下空間を設けることが可能となり、車寄せを確保したり、広場での活動を最大化できる計画です。



花巻の“これから”を担うエネルギーが連鎖する拠点



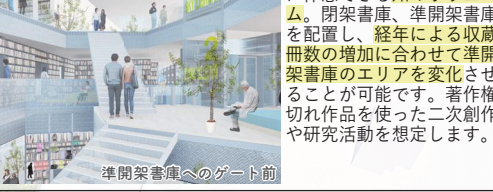
2 旧花巻駅の歴史を継承する新たな駅前空間と 既存広場の活動を最大化する配置計画



3-4F : SKY LIBRARY



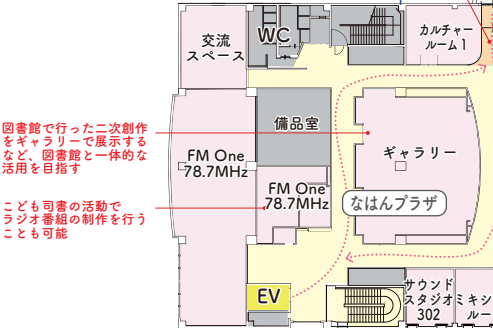
2F : STORAGE COLLECTION



1F : BOOK STATION



職員の心身の安全確保を最重要視し、市民と接する職員配置は必ず2名1組以上（技能の継承や責任の明確化の観点から、必ず正規職員と会計年度職員の組み合わせを基本）とし、ICタグを生かした貸出手続きのセルフ化を行い、職員は基本的に貸出業務を行わないものとします。



イベント時 会議室(学習室) 1F
閲覧室
閲覧室
3F
図書館内の防災マップ

(181 台) EV 駐車場

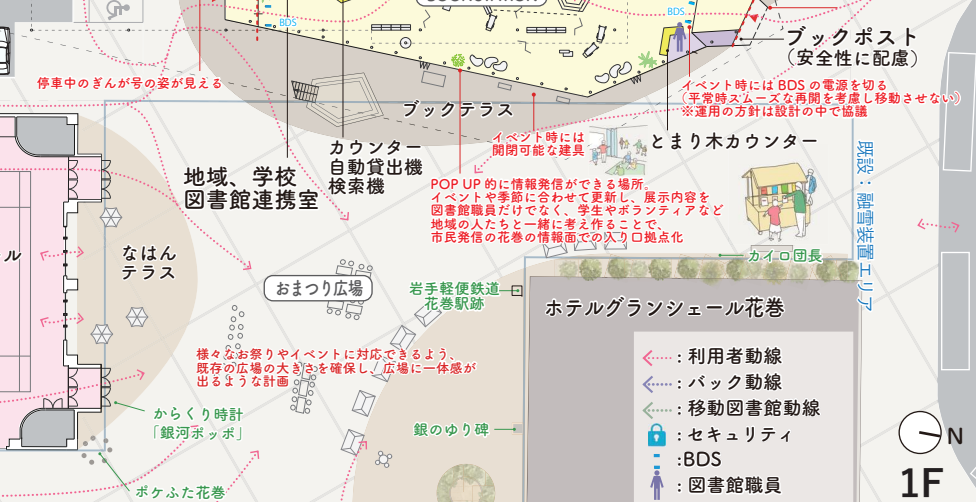
JR 鉄道車両
点検入口 緊急車両動線

← →

歩車分離の計画とし、花巻第2駐車場

事務室
ラジオサテライト
スタジオ
なはんプラザ
COM

必要に応じては、本プラザの改修
本図書館との相乗効果を高める。



中央館の計画にあたり、市内4図書館の蔵書・配架計画の再編を提案します。大迫、東和、石鳥谷図書館は地域の特性を活かし、中央館には年月が経ち利用頻度が低下した9類：文学を集めます。2Fの二次創作活動（準開架書を中心に配架を想定している著作権切れ作品を活用）との関連性も高く、また他館からのリクエストに対しては中央館から直に他3館へ発送できるなど、シンプルな物流計画が可能です。市内それぞれの図書館で役割分担を明確化することで、目的に合わせた活用が可能な図書館連携を目指します。

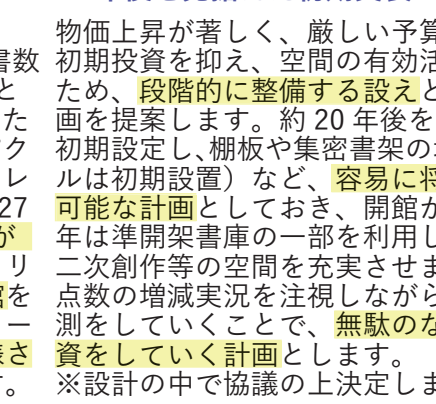
広場とつながる 1F の空間は図書館の入り口である。文化や歴史への出発地点でもあります。花巻にゆかりのある 200 名とその後の新たな先人 100 名、現在活躍中の若者の合計 500 名を対象とした「花巻人ライブラリー」を設けることで、市内外の関係機関と連携します。作品の出張展示（レプリカ含む）など実物に触れられたいと思います。資料は最終目的ではなく、市内外に一步踏みかけと出会う、文化的なコモンズへの入り口となります。

LEED Ready を確実に達成し、その先を見据えた未来の世代にとって、より居心地の良い環境建築を目標とします。本の大敵である日射を西側開口の制限や屋根形状で制御しながらも、比較的影響が少ない位置に開口を設けることでまちや広場に開かれた空間とします。2 階に屋外機械置場を設けることで、屋上の設備機設置面積を最小化し、オーバーハングした大きな南さき屋根面を乾式外断熱化することで、太陽光パネル置可能面積を最大化します。創エネ状況の見える化と同時に、地産地消を目指すバイオマスエネルギー活用の検討など、楽しみながら環境や地域の循環を学べる実践知の場としての在り方も検討します。

軽量の鉄骨ラーメン構造は耐震や基礎への負担が少ない計画です。屋根の多面体や片持部の方杖の効果で鉄骨量の少ない形式とされています。

大屋根や吹抜等の建築計画は省エネの最も大きな装置
熱環境では図書館運営を念頭に置いて解析により具現化する

熱環境シミュレーション



最先端の DX 技術を活用することで、図書館業務を再度見直し、職員の負荷軽減を図ります。また、大部の紙資料からデジタル資源へ置き換えの合理性が高いものを置き換え、有料データベースの導入など従来の図書館資料を見直し、さらに市内の文化拠点の横断検索を可能にするため「データ連携基盤」（デジタル庁）の構築を提案します。市内の文化的なユモンスへ容易にアクセスが可能となるなど、市民サービスへの活用も検討していきます。

